

復活の主日 2020.4.12

主の復活

ヨハネ福音書 20:1-9

週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。そこで、シモン・ペトロのところへ、また、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のところへ走って行って彼らに告げた。「主が墓から取り去られました。どこに置かれているのか、わたしたちには分かりません。」そこで、ペトロとそのもう一人の弟子は、外に出て墓へ行った。二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子の方が、ペトロより速く走って、先に墓に着いた。身をかがめて中をのぞくと、亜麻布が置いてあった。しかし、彼は中には入らなかった。続いて、シモン・ペトロも着いた。彼は墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。イエスの頭を包んでいた覆いは、亜麻布と同じ所には置いてなく、離れた所に丸めてあった。それから、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来て、見て、信じた。イエスは必ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。

説教

日本は緊急事態宣言下なのでイースター礼拝は中止となっている教会も多いと思います。また、世界の教会も同じような状況だと思います。礼拝がないからイースターはなしかというところではなく、礼拝があろうがなかろうがきょうはイースター、主の復活の祝日です。イースターおめでとうございます。一人ひとりで盛大にお祝いしましょう。

セカンドチャーチは教会礼拝に行けない人、行きたくない人向けにできた教会ですので、緊急事態宣言があってもなくても礼拝ができるのだなああとあらためて感じました。

医学には基礎医学、臨床医学、社会医学という3つの分野があるそうです。基礎は難しい理論を研究し、臨床は患者を治療し、社会医学は法医学のほか、病気の予防を目的とした公衆衛生学、さらに地域医療など、医学と社会との関わりも考えていく分野です。

この分野分けをキリスト教にあてはめてみると基礎医学はキリスト教神学に、臨床は教会指導者（牧師、神父など）に、社会医学に対応する分野ははっきりと確立されていませんが、宗教間対話など他宗教とのかかわりを研究するキリスト教神学の一分類になるのでしょうか。

さて、基礎医学に相当するキリスト教神学、とくに現代の新約神学ではイエスの復活については「非神話化」理論が現在の主流になっています。

1. 復活否定派。近代になり復活なんて合理的にありえない、という考え方がうまれました。

2. 復活肯定派。福音書はイエスの復活を神話化して語ったので合理、非合理という問題ではないといいます。

3. 非神話化派。復活肯定派の主張する神話化を更にひとひねりして「歴史のイエス」を語ることが「信仰のイエス」を語ることにもなる、昔のひとの神話的解釈を歴史、信仰をとおして再度検証しようという立場が「非神話化」理論です。

基礎医学は難しい学問なのですが、キリスト教神学もかなりややこしく難しい議論が続いています。臨床の立場というか現場の牧師は非神話化云々ではなく単純にイースターおめでとう！！で説教すればまあいいか（わたしもそうです）となることも多いようです。

緊急事態宣言は専門家会議の意見を尊重したと首相はテレビでいっています。危機に際しては基礎も臨床も出番はなく、社会医学が力を発揮するときです。首相が知っている専門家とは社会医学者のことでしょう。

キリスト教に限らず宗教全体も危機的状況にあります。コロナ危機ではたら

きを發揮している社会医学が、宗教的危機脱出のヒントになるかもしれません。
